

ベネズエラの最新動向(3月～4月)

本レポートは、国際協力銀行ニューヨーク駐在員事務所が、ベネズエラの政治・経済・外交・資源セクター等の最新動向に着目して、現地報道などの公開情報を中心に情報収集し、取り纏めたものです。

I. 政治・経済

1. コロンビア国境での武力衝突激化で、マドゥーロ政権が軍増強＝避難民によるコロナ感染も懸念

- パドリーノ国防大臣は4月5日、臨時特殊部隊を新設し、コロンビア国境の Apure 州に配置すると発表。直近、コロンビア国境付近では、違法武装集団とベネズエラ軍隊の衝突が激化し、現地住民や兵士に多数の死者が出ているとされ、5,000人以上に及ぶ住民が強制退去を強いられている模様。
- マドゥーロ政権によると、武装集団は、麻薬取引業者や密輸業者の他に、マドゥーロ政権を不安定化させることを目的としたコロンビアの民兵組織などによって構成されており、こうした違法組織が国境周辺地域の治安を脅かしていると主張している。4月14日には、マドゥーロ大統領が、ベネズエラ民兵組織1,000人を Apure 州に追加配備することを決定しており、国境付近での混乱は暫く続く見通し。
- 国境周辺にはコロンビア軍も派遣されているほか、米軍も周辺に偵察機を送っているとされ、現地情勢は国際問題にも発展しつつある。
- アナリストは、国境付近での治安悪化により、他の都市やコロンビアに避難するベネズエラ人が急増しており、既に深刻なベネズエラでの新型コロナウイルスの感染がさらに拡大する恐れがあると指摘。また、ベネズエラ軍は、国境付近の混乱を収束させる用意ができておらず、軍部が強硬手段に踏み切ることになれば、人権侵害にも繋がりがかねないと指摘している。

II. 外交

1. マドゥーロ政権、国連 WFP からの食糧支援で合意＝国際社会からの支援受け入れを容認へ

- マドゥーロ大統領は4月19日、人道支援の一環として、ベネズエラ国内の150万人の子供への給食の無償提供の支援を受ける協定に国連世界食糧計画(WFP)と合意したと発表。マドゥーロ政権はこれまで、国際社会からの人道支援を拒否し続けてきたが、ベネズエラでの人道危機が深刻化する中、国際社会からの支援受け入れを容認した格好。
- ワクチン接種の取り組みにおいても、COVAX ファシリティ(ワクチンの国際的な共同購入の枠組み)を通じたワクチン供給を行うことでグアイド派野党と合意し、グアイド派と折半で COVAX ファシリティへの支払いを完了させる等、マドゥーロ政権は、国際社会や野党勢力への歩み寄りの姿勢を見せており、ノルウェー仲介による与野党対話や米経済制裁の緩和の実現に向けた思惑もあるとみられている。

- ワクチン調達においては、米国で凍結されていたベネズエラ資産の一部が COVAX ファシリティへの支払いに充てられたとされており、バイデン米政権が凍結資産の一部解除を容認したとみられている。
- 他方、バイデン米政権は、マドゥーロ政権が人道支援に関する政策や、年末に控える全国州知事選挙の選挙条件で、大きく方針を転換しない限り、現行の経済政策を緩和することはないと明言。また、野党勢力は、マドゥーロ政権幹部で構成される選挙管理委員会(CNE)メンバーの入れ替えや、全ての野党政治家の政治復帰などを要求しており、米国の経済制裁緩和に向けて、マドゥーロ政権が、幾つかの要求に応じる可能性があるとの見方もある。
- アナリストは、マドゥーロ政権が野党勢力の要求に応じるようであれば、米国が経済制裁の一部を緩和する可能性があるとするも、それは段階的なものであり、進展するには時間を要すると指摘。また、大部分の経済制裁は今後も維持される可能性が高いと指摘している。

III. 石油その他の資源セクター

1. ベネズエラの産油量、50 万バレル/日超の水準で安定＝輸出量の増加傾向も継続

- OPEC は 4 月 13 日に公表した石油月報で、2021 年 3 月のベネズエラの産油量が前月比 0.2%増の 52.5 万バレル/日だったと発表。同統計は、OPEC が二次情報源(Secondary Sources)から集めた情報を元に算出したものであるが、ベネズエラ政府が自己申告した統計(Direct Communication)においても、2021 年 3 月の産油量は 57.8 万バレル/日と前月の 53.8 万バレル/日から増加しており、直近の産油量は 50 万バレル/日を超える水準で安定している。
- ベネズエラ原油価格(Meruy)も、直近の世界原油価格の回復に伴い、2021 年 3 月には前月比 8.4%高の 46.47 ドル/バレルまで上昇しており、その上昇幅は OPEC 加盟国平均(前月比 5.7%高)を上回っている。
- ベネズエラの石油輸出量については、衛星画像データを用いた推定によると、2021 年 4 月前半に 69.6 万バレル/日まで急増したとされており、2021 年 4 月の石油輸出量は、前月比で 30%を超える増加が見込まれている。輸出先については、アジアが大半を占め、特に、中国への輸出量が全体の 56%(39.3 万バレル/日)に上ると推定されており、中国がベネズエラ産原油の主要な買い手となっている模様。
- ベネズエラの産油量・輸出量が増加傾向を維持していることを踏まえると、割安なベネズエラ産重油に対する世界的需要は引き続き高いとみられている。他方、OPEC 等のデータを踏まえると、今のところベネズエラでの掘削リグのオペレーションが再開される兆しは見られていない。

以上

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。